令和４年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

1　報　告　地　区：釧路地区

2　事例報告学校名：厚岸町立太田小学校

3　報告者職・氏名：校長　富　田　義　宏

4　キ　ー　ワ　ー　ド：地域の教育力を生かす…誰もがいつでも関われる学校「学校のサロン化」

1　校区現状と「学校のサロン化」

本校が所在する厚岸町太田地区は、屈指の酪農地帯で大規模経営が多い。屯田開基・開校132年の歴史があり地域保護者の郷土愛、母校愛は絶大である。地域の教育に対する関心も高く、学校に寄せる期待同様、協力・協働への意欲も強い。しかし、時代の動向である少子高齢化や、３年目となるコロナ禍による様々な制限等により、学校と地域・保護者が「関わり」をもちづらくなっていることも事実である。

そこで、赴任してからの２年間で取り組んできた「地域とともにある学校づくり～学校・家庭・地域の連携・協働の充実：『学校のサロン化』を目指した実践～」について記し、成果と今後の目指すべき方向性について明らかにする。

2　実践の概略

コンセプトは「誰もがいつでも関われる学校：学校のサロン化」とし、実現に向けた継続的な実践を図っている。

学校を開く　≒　誰もがいつでも関われる学校　「学校のサロン化」

【主な取組】

小中の連携・協働の充実	太田カリキュラムデザイン	学校発　保護者・地域への働きかけ
• 小中連携研修の実施 • 中１ギャップ問題未然防止事業の効果的な活用 • 中学校登校の実施と相互乗り入れ授業	• 生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムマネジメント • 地域の人的・物的資源の効果的な活用	• 学校運営協議会での熟議（企画・推進） • 地域自治会・地域行事への積極的な参画（広報、要望・依頼の伝達）

3　取組と成果

(1)　小中連携・協働の充実

令和３年度・４年度、継続して年３回ずつの小中合同研修を進めてきた。令和３年度は「９年間の学びの地図～自らＨＡＳＳＩＮできる太田の子～」を完成させ、令和４年度は実践を通して改善しながら、小中９年間を通して確実に身に付けたい資質・能力を共有した教科・領域の指導・支援に当たることができた。

中学校登校は年10回程度実施。５・６年生が中学校へ登校する。中学校教諭による小学生に向けた専門的な授業や、小中学生が一緒に活動する体育授業、集会活動、町総合防災訓練の児童生徒打ち合わせ、児童会生徒会交流などを行っている。中１ギャップ解消に向けた活動が充実し、普通に行われるようになっていることは今年度の大きな成果である。

(2)　太田カリキュラムデザイン

地域の人的・物的資源の効果的な活用では、太田地域のみならず、厚岸町、釧路管内、全道・全国規模の教育資源を活用しながら、持続可能な教育活動・指導計画を整理することができている。単元を構想する際、学習目標を達成するために、この場面で、この人・この場所、この事象を活用するという視点で「ねらい」を明確にした地域の教育資源活用が図られている。地域の方々からは、「このようなことなら、協力できる。」とか「学校でもこういう活動をぜひ取り入れられないか。」と積極的な協力が得られている。

令和４年度　人的・物的資源活用（個人敬称略）

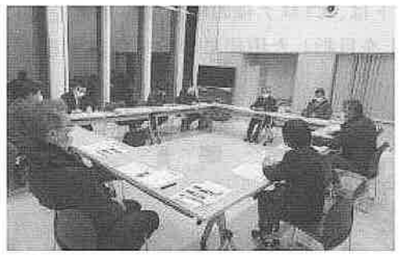
- 片無去夢風舎写真家　大八木茂　（高学年総合　中学年国語　全校図工）
- 元スマイルジャパン　大澤ちほ・水上愛奈（小中合同道徳・体育）
- 釧路管内芸術家集団シンフォニアスープ　（芸術鑑賞）
- エスポラーダ北海道ＣＰＯ　吉田順省　（全校体育）
- ゴールボールパラリンピアン　高田朋恵（全校体育あすチャレスクール）
- 本の森厚岸情報館の皆様、読み聞かせの会の皆様（ブックフェスティバル）
- JA太田農協の皆様（低学年生活科　中学年総合　高学年総合）
- 石澤牧場、寺島牧場（中学年総合）
- 太田パークゴルフ同好会の皆様（クラブ活動、低学年生活科）
- 太田屯田開拓記念館（校内研修　中学年社会科・総合）
- アマモワークス、北大臨海実験所の皆様（高学年総合）
- エステー株式会社、株式会社北都、まちまち鉛筆の皆様（高学年総合　木育）
- LandEdge 高山真由子（高学年総合）
- 厚岸漁協の皆様（中・高学年総合　中学年社会）
- 厚岸町役場観光係の皆様（高学年総合）
- 厚岸水鳥観察館長　渋谷辰生（高学年総合）

他、多くの方々、機関企業、団体の皆様に…

(3)　学校発　保護者・地域への働き掛け

地域行事（豊受神社祭、盆踊り、敬老会、酪農祭、パークゴルフ大会……）に職員と児童が、地域自治会や学校運営協議会には管理職以外の職員も地域住民の一人として積極的に参加するなど、学校は地域の一員としてできることをしっかり果たしているということを見える形でお伝えする。その上で、学校への協力や参観を促したり、学校のためにしていただけることを熟議いただいたり、多くの方々の学校運営への参画意識が高まってきている。

【令和４年11月28日第２回学校運営協議会】



4　今後の方向性

小中連携、地学協働について本校の取組は他地域と比べても進んだ取組となりえていると自負している。時々の課題に即しながら、そのアドバンテージを最大限活用したり、通常の教育活動に当たり前のように位置付けたりしながら、無理なく持続していける在り方が構築できている。児童には地域の、そして、そこに住む大人の、地域には学校・児童・教職員の、「よさ・すばらしさ」の共有を図りながら、誰もがいつでも関われる学校の実現に向かう。

学校は開かれた場所であり、信頼できる大人はいつでも来校、参観できる場所であることを保護者・地域住民等に宣言することで「学校のサロン化」を実現できるところまで来ている。感染症の様子を見ながら、年度中には高らかに宣言したい。